

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 19 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	角館の観光行事実行委員会補助金				
担 当 課 係 名	観 光 課		観 光 係	作成者	中村和彦
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち			総合計画の ページ
	基本計画	観光誘客体制の整備と観光資源の掘り起こし			
	主要施策	テンミリオン計画の推進			29
予 算 費 目	一 般 会 計	7 款 商 工 費	1 項 商 工 費	3 目 観 光 費	
事 業 期 間	平成 年度 ~ 平成 年度		新規 / 継続の区分		
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☒ 補助金 ☐ 内部管理				
根 拠 法 令 等					
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運 営 方 法	☐ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☒ 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象（誰のため・何を）	桜まつり、送り盆行事、火振りかまくら行事の三事業を角館の観光行事としている。市民、観光客等を対象としている。
事業の目的・意図（どういう状態にしたいのか）	桜まつりについては、仙北市の代表的な観光地の宣伝に努め、観光客のより一層の増加を図る。送り盆については、400年以上の歴史を伝えるささら舞を通して後世に伝承する。火振りかまくらについては、冬季観光の宣伝誘客に努めることを目的とする。
事業の内容（どのような業務、活動を行うのか）	桜まつりについては、観光宣伝、誘客、交通整理等。送り盆については、ささら舞、出店振舞酒の提供、角館音頭の披露、観覧席および案内看板の設置等。火振りかまくらについては、炭俵、天筆、わら束、雑片の準備および配布、雪灯籠作成等。

【事務事業の推移】

（単位：千円）

		項目	単位	18年度実績	19年度実績	年度実績
効果	活動指標	観光客数	人	1,582,300	1,424,500	
	成果指標	観光客数対前年比	%	110	90	
投下コスト	項目		総事業費	18年度決算額	19年度決算額	年度決算額
	事業費（人件費を除く）(A)			11,100	11,100	
	財源内訳	国庫支出金				
		県支出金				
		地方債				
		その他				
		一般財源		11,100	11,100	
	人件費 (B)		—	3,927	4,036	
		職員数	—	0.5	0.5	
		職員平均人件費	—	7,853	8,071	
		(A) + (B) 投下コスト	—	15,027	15,136	
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	9	11	
			—			
	市民1人当たりのコスト(円)		—	471	482	

【事務事業の今までの成果】

桜は、全国でも有数の名勝地となり定着しており、期間中の人出も１００万人を超える仙北市最大のイベントとなっている。送り盆、火振りかまくらは、観光客数は会期の関係で多くはないが、伝統を尊重し、後世への継承と観光宣伝誘客効果へつなげる。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	桜まつりは、全国各地から問い合わせ、テレビ取材等があり注目度が高いイベントとなっている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	多くの観光客が訪れる事により、交通渋滞、駐車場、飲食店等に対する要望、苦情が多くなっている。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性		判 定 に 至 っ た 理 由
B	A	現状のまま継続（実施）	交通渋滞対策、駐車場等の見直し。
	B	見直しの上で継続（実施）	
	C	大幅な見直しの上で継続（実施）	
	D	休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

観光客等の更なる増加と安全かつ円滑な催し物の開催を行うために、交通渋滞の改善、駐車場の見直し、開催期日の見直し等を行い、日本一の桜、伝統行事の送り盆、火振りかまくらを後世に伝承していきたい。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
B	「角館の桜まつり」として全国的に有名となっているが、滞在型の観光客を増やしていくことは重要であり、イベント内容の充実や観光客増加に伴う交通渋滞の改善や駐車場の確保に検討する必要があると考える。

一次評価診断図

